

## C O L U M N

## 高蔵寺ニュータウンの水道

高蔵寺ニュータウン開発の始まりは、中京圏への人口、産業の集積が急速に進み、都市勤労者に対する住宅不足が顕在化してきたことを受け、愛知県が昭和35年に策定した「愛知県地方計画」に名古屋大都市圏におけるニュータウン開発を掲げたことからです。これと並行して、日本住宅公団（現・都市再生機構）で

も中京圏の大規模開発適地の検討を進めており、昭和35年10月に高蔵寺地区を開発地として決定しました。高蔵寺地区が選定されたのは、開発予定地区内に国有地あるいは県有地を多く含んでいたこと、近くを通る国鉄（現・JR）中央本線の複線化が進み、電化の計画があり、名古屋市中心への輸送力が確保できること、開発予定地区一帯がゆるやかな丘陵地で、まとまった住環境が確保できることなどが主な理由でした。しかし、最大の決定要因は、安定した水源が確保できることでした。この時期、開発予定地内に愛知県が水利権を有する愛知用水が建設中であつたためです。

当時の市の水道は、地下水を水源として供給していたため、既成市街地で年々

増加し続ける水需要に添えていくには限界がありました。このため、高蔵寺ニュータウン開発によって生じる新たな水需要に対する水源を独自で確保することは困難でした。こうした状況から、各関係機関が協議を重ね、この地区を縦貫する愛知用水に水源を求めることとしたのです。

昭和43年3月に日本住宅公団が水道事業の認可を厚生省（現・厚生労働省）から受け、ここに市の水道とは別に「高蔵寺水道事業」が誕生し、同年5月からニュータウンの一部に給水を開始しました。ここでは、愛知用水幹線水路から取水した水を愛知県が整備した高蔵寺浄水場で浄水し、それを高蔵寺水道事業が住民に給水していました。

その後、昭和49年には、市の水道も木曾川総合用水事業の岩屋ダムによる尾張水道用水からの供給を始めました。しかし、昭和53年ごろから、市水道事業給水地域と高蔵寺水道事業給水地域の水道サービスの一元化を求める多方面からの要請があり、関係各機関においてもこの声を重視し、幾度となく協議を重ね

るとともに、住民のなかにおいても統合への気運が盛り上がってきました。

こうしたさなか、平成6年に渇水が起こり、尾張水道用水から供給される地区は節水、一方、愛知用水から供給される高蔵寺ニュータウン地区は時間給水という、市民サービスにとって不均衡が生じました。このことを機に、さらに住民から両事業の統合を求める声が高まり、統合への機運が一気に醸成されていったのです。

このような背景の下、平成12年4月1日をもって、「高蔵寺水道事業」を「春日井市水道事業」に統合することとなり、1つの行政区域に2つの水道事業が并存するという特殊な状況が解消されました。

また、平成14年12月、庄名町にポンプ場を建設し、尾張水道用水から供給されている地区とこの地区を送水連絡管で結び、渇水等の非常時においても安定した給水を可能にしました。

（出典：高蔵寺ニュータウン20年の記録 日本住宅公団中部支社発行）

# 拡張事業の変遷

